

糸我小学校だより

令和元年7月16日



一日一日を大切にしてお有意義な夏休みを！

いよいよ子供達にとって楽しい夏休みが始まります。保護者の皆様には、この4月以来、お子様の健やかな成長を支え、本校の教育にご協力下さりありがとうございました。夏休みは、今までの学習や生活を見つめ直し、新学期に備え、志を新たに準備する絶好のチャンスです。学期末にお渡しする通知簿（1年生は「学習のあゆみ」）を参考にされて、お子様がさらに伸びるための手助けや励ましの材料にしていだければと思います。

さて、夏休みは37日間です。子供達には、得意な学習を伸ばす、苦手な学習を克服する等、有意義に過ごしてほしいと思います。また、家の手伝いをする、朝起きる時刻を決めて規則正しい生活をする等、何か続けられるものを見つけ、継続してほしいと思います。継続できるものは、二学期が始まってからも続けられるとさらに素晴らしいです。

また、近くの水族館や博物館に行ったり、各種イベントに参加したり、お子様にとって良い体験ができる夏休みにしていただければと思います。夏休みの経験が2学期からの学校生活をさらに充実させるきっかけとなりますようお願いしております。

子供達が楽しみにしている夏休みですが、この時期子供にかかわる海や山の事故、交通事故、熱中症等が、残念ながら毎年各地で発生しています。とくに、旅行先等、日常と異なる環境にあるときは要注意です。安全面へのご配慮もよろしく申し上げます。



情報モラル(出前授業)

7月2日(火)に、和歌山大学から豊田充崇教授をお迎えして、5・6年生に情報モラルの授業をしていただきました。内容は、「ゲーム依存症」と「LINE等のSNSによるトラブル」についてでした。

「**ゲーム依存症**」については、次のようなことを教えていただきました。

- ・「ゲーム依存症」は「ゲーム障害」とも呼ばれ、5月に世界保健機関(WHO)によって病気であると位置づけられました。
- ・中学生長時間ゲームプレイ率を都道府県別に調べると、良くないことに和歌山県が1位でした。(2015年)
- ・長時間ゲームをしていると、勉強ができずに成績が下がります。また、周囲の人とのコミュニケーションがうまくとれなくなります。
- ・ゲームをする時間については、1時間までなら成績に影響がないという調査結果が出ています。(時間を決めて、しすぎないようにしましょう。)



「**SNSによるトラブル**」については、プライバシーの侵害をしないことや、LINEで友達に困る内容を書き込まないようにすること等について学びました。また、書き込んだことはずっとネット上に残るので、注意が必要であることも教わりました。

いろいろな資料や画像を使っての説明や、身近でよくありそうな事例について考える時間があり、情報機器利用における注意点について学ぶ貴重な時間となりました。

心肺蘇生法講習会

7月3日(水)に、有田市消防署の署員2名を講師にお迎えして、保護者と教職員対象に心肺蘇生法講習会を実施しました。夏休みの自由水泳での事故を想定して、胸骨圧迫(心臓マッサージ)、人工呼吸、AEDの使用法を中心に実習を行いました。

胸骨圧迫では、圧迫する位置、圧迫の深さや速さ等を教わり実習しました。

人工呼吸では、気道を確保することや鼻をつまんで行うなどのポイントを押さえて実習しました。そして、胸骨圧迫30回に対して、人工呼吸を2回行うことも教わりました。

AEDは、実物と同じ形のモデルを使って実習しました。保護者の皆さんも教職員も、真剣に実習に取り組みました。



七夕本まつり ～星に願いを～

7月4日(木)に、1年生と2年生が体育館に集まり、七夕本まつりを行いました。

はじめに、1年生の担任からの「星の話」がありました。舞台前には笹飾りがあり、織姫星と彦星の画像を見ながら、七夕らしい雰囲気の中で、子供達はお話に聞き入っていました。

次に、一人ひとりが微笑ましい内容の願い事を発表し、七夕の歌を全員で歌いました。

そのあと、司書さんに、七夕に関係した内容の紙芝居を読んでもらいました。

最後に、子供達は体育館に広げて置かれた七夕や星に関する本のところに各自が行き、読書を楽しみました。



「みかんの授業」 摘果体験

7月8日(月)に、宮本正弘さんから3年生に「みかんの授業」を行っていただきました。

みかんの摘果作業について教わり、実際にさせていただきました。また、空調服や、農薬散布、マルチ敷きについても教えていただきました。

11月には、みかんの収穫体験をさせていただく予定です。



ひとの「手」

人間にとって、二足歩行は二本の前足(手)を自由にすることで、計り知れないほど大きな効用をもたらしました。

「手当」という言葉があります。「病氣やけがの処置をほどこすこと」という意味ですが、もともとはけがや病氣をした時に、手のひらを当てて治療をしたことから生まれた言葉です。

熱がありそうだと思えばおでこに手をやり、おなかが痛ければそっと手を当てる。不思議と痛み等が治まるものです。まさしくハンドパワーです。

子供と手をつなぐ、そのことで心にほっとする温かさが生まれ、無言の交流が図られます。安心と呼ばれるのはこうして育つのでしょう。

子供の手を握りながら、一日の出来事を聞いてみるのもいいですね。

